

国語プリントNo. ( )

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

## 群読「春はあけぼの」(枕草子) 清少納言

01	A	春は、あけぼの。	漸 増 法
02	+ B	やうやう白く	
03	+ C	なりゆく山ぎは、	
04	全員	少し明りて、紫だちたる雲の、	
05	A	細くたなびきたる。	わ た り
06	B	夏は、夜。	
07	全員	月の頃は、さらなり。	
08	B	闇もなほ。	
09	全員	蛍の多く飛び違ひたる、	追 い け
10	A	また、ただ一つ二つなど、	
11	B	二つなど、ほのかに	
12	C	ほのかにうち光りて	
13	D	うち光りて行くも、をかし。	異 文 並 行
14	B	また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも、をかし。	
15	全員	雨など降るも、をかし。	
16	C	秋は、夕暮。	
17	D	夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、	追 い け
18	C	鳥の、寝どころへ行くとして、	
19	A	三つ四つ、二つ三つなど、	
20	D	三つ四つ、二つ三つなど、	
21	C	三つ四つ、二つ三つなど、	追 い け
22	A B C	三つ四つ、二つ三つなど、	
23	C	三つ四つ、二つ三つなど、	
24	A B D	三つ四つ、二つ三つなど、	
25	C	はたいふべきにあらず。	追 い け
26	A B D	風の音、虫の音など、	
27	A	日入り果てて、	
28	B	霜のいと白きも。	
29	C	また、さらでも	追 い け
30	D	いと寒きに、火など急ぎ熾して、	
31	A B	炭もて渡るも、いとつきづきし。	
32	C D	「 昼になりて、温く緩びもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりて、	
33	D	火桶の火も、白き灰がちになりて、温く緩びもていけば、	